【鎌倉市】

校務DX計画

1　現状の分析

本市の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による令和６年度時点での結果（半分以上がデジタル化）は以下のとおりである。さらなるデジタル化に取り組んでいく必要がある。

市区町村名		鎌倉市
教員と保護者間の連絡のデジタル化	欠席・遅刻・早退連絡	100%
	お便りの配信	0%
	調査・アンケートの実施	60%
学校内の連絡のデジタル化	校内での資料共有	95%
	校内での情報共有	90%
	調査・アンケートの実施	55%
教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化	各種連絡事項の配信	25%
	調査・アンケートの実施	15%
その他	FAXの原則廃止	0%
	押印・署名の原則廃止	15%

デジタル庁ホームページ（令和６年10月4日時点公開）より

（１）教員と保護者間の連絡のデジタル化

出欠連絡については６割の学校が活用してるが、市として共通の連絡方法の導入を検討していく必要がある。学校から保護者への連絡ツールについては、メールによるグループごとの一斉配信が可能な環境であるが、お便りの配信機能がなく、学校からの要望も高い。調査・アンケートの実施機能とともに早期に導入していく予定である。

（２）学校内の連絡のデジタル化

教職員間における職員会議等の資料の共有や日常的な連絡や情報共有は、校務支援システムのグループウェアやクラウドサービスの活用が進んでおり、９割以上の学校でデジタル化されている。調査やアンケートについては、紙で提出を求める書類が依然として多く存在しており、今後の課題である。

（３）教員と児童生徒間の連絡のデジタル化

クラウドサービスやデジタルドリル教材を用いた宿題など、家庭における活用は進んでいる。児童生徒の学習用端末の持ち帰りについては、学校事情に応じて実施しているが、毎日持ち帰っている学校は少なく、各種連絡事項の配信や調査等に活用している学校は２割程度にとどまっている。教員と児童生徒間の連絡手段としてはGoogle

Classroomの活用が考えられるが、日常の連絡は対面で行うことが基本となるため、休校などで急遽必要となったときに利用できる環境を整えておくことが重要である。

（４）その他

一部の業者へのFAXの使用や、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があると回答した学校が８割以上である。今後、関係機関や学校とやりとりのある事業者等と協力し見直していく必要がある。

２　今後について

（１）ネットワーク基盤、システム連携

本市の教育系ネットワーク基盤である鎌倉市市教育ネットワークは、従来のネットワーク分離の考え方に基づいて構築され、重要性分類に対応した構成となっている。「校務系と学習系のネットワーク統合」、「校務システムのクラウド化」といった国の示した方向性を踏まえ、校務支援システムや各システムの更新時期に合わせた再構築に取り組んでいく。

（２）セキュリティの確保とテレワーク環境の構築

「次世代の校務DXにおける情報セキュリティの確保」にて示された、ゼロトラストセキュリティ等の考え方に基づき、高いセキュリティ対策を講じたうえで、利便性の向上を実現すための、クラウドの活用、ネットワークの統合等について取り組んでいく。

（３）ペーパーレス化の推進

情報教育推進担当者会においての情報共有を定期的に行い、校務におけるクラウドツール活用促進を図る。また、新たなメール配信サービスの導入により、児童生徒、保護者へのPDFファイル等の添付配信を可能としていく。さらに、アンケートの電子化などの校務効率化のために「鎌倉市小・中学校情報セキュリティポリシー」の見直しを行うとともに、押印や署名の廃止についても同時に行っていく。